

まちづくり座談会

7月2日から8月25日にかけて、各地区コミュニティセンターで開催されたまちづくり座談会。今年は、合計で322人の方にご参加をいただきました。まちづくりに関する大切なご意見をいただき、ありがとうございました。地方創生、まちづくり複合施設整備、公共施設の跡地利用を中心に、皆さんからいただいたご質問・ご意見の中から、主なものをお知らせします。

◎地方創生について

Q1 人口の減少についてはどう見ているか。

A. 人口の推計では、平成32年13,288人となっていますが、目標値を13,500人とし、減少を止める方策を策定いたします。人口の増加は、出生によるものと、転入によるものの二つの側面があり、これまでも陽光学園の開所などによって人口が増えた経緯もあります。雇用創出や定住に向けた現実的な手立てを考えていきたいと思っています。

◎まちづくり複合施設整備について

Q1 プロポーザル方式とは、

Q1 どのような仕組みか。町内の業者は参加しているのか。

A. 基本構想を基に、基本設計を行う業者を選定するため、実績や技術力、企画等を提出していただき、「企画競争」を行うものです。6月下旬に説明会を行い、説明会には18社が参加しました。その後、東北・関東・甲信越地域に本社機能があるなど、一定条件をクリアした企業から参加表明があり、8月22日に公開プレゼンテーションを行い、基本設計を委託する業者を選定します。（結果は本紙10ページに掲載）

町内の設計業者について

は、施設規模等の問題などで、今回は参加がありませんでした。

Q2 どのくらい白鷹町産材を使用する計画なのか。

A. 現在、鮎貝自彊会の森林調査をしています。80年生のスギなどもあり、十分確保できそうだと見込んでいます。今後、試験伐倒を行い、利用したいと考えています。町産材は、集成材等に加工するのではなく、製材品利用を想定しています。防火の観点から、100%の利用は難しいと考えておりますが、できるだけ利用していく計画です。

Q3 町内経済への効果は？森林産業を活性化させる計画はあるのか。

A. まちづくり複合施設整備は、森林再生、林業振興、木材産業振興のスタートととらえています。どうやって山を管理していくか、管理する人をどう育てるか、木材をどう加工するかも含めて検討し、木材の利用を促進して、結果として木造の建物ができるという、循環する仕組みを作り、町内の産業の振興に結びつけるための取り組みを考えています。具体的には、町内で製材する仕組み、町内の大工さんにかかわっていただくことなど検討していきたいと考えています。

また、森林資源を活用していくためにも、その第一歩として、現在取り組んでいる森林の境界明確化事業を推進していきます。

Q4 事業費は？コストダウンの見込みは？

A. 平成26年度策定した「基本構想」の概算事業費は31億円となっています。今後、「基本設計」「実施設計」を策定する中でコストダウンを図っていききたいと考えています。



Q5 今後のスケジュールは？

A. 今年度末までに基本設計を完了し、平成28年度中に実施設計を行います。着工は平成29～31年度までの3年間で整備を目指しています。